

# ヒトが人間になるための進化の歴史

帯刀益夫（東北大学名誉教授）

## 第3回 ホモ・ファールベル

### 「ものづくり」をするヒト

日本は「ものづくり」の国として発展してきましたが、この「ものづくり」をするヒトが、ホモ・ファールベル（工作人）です。

「工作」の始まりは「石器づくり」であり、その契機となったのは、偶然に手に持った石を物に叩きつけると砕けることに気付き、それを能動的に繰り返して「手斧」のような石器を作りはじめたと想定されます。

そのためには、まず先祖のヒトが二足歩行をはじめ、自由になった手の進化が進み、握る物を強く、また精度高く握ることができ、さらに自由に操作できるように手の進化

が進んだと考えられています。

#### 人類最初の石器

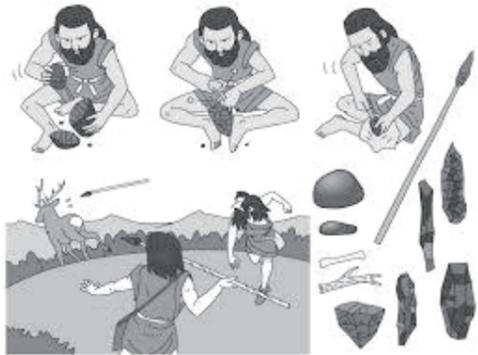
人類最初の石器は、タンザニアのオルドバイ渓谷で発見されたオルドバイ石器で、同じ場所で発見された260万年前の人類（ホモ・ハビリス）の化石の手の構造から、ホモ・ハビリスが人類の最初の工具製作者であると考えられています。

オルドバイ石器は、手のひら大の丸石や角礫を別の石にぶつけ、一端を打ち欠いて刃をつくった礫石器で、骨をくだいて中の髄を食べたり、肉や植物を切るのに使われたと考えられています。

#### アシユール文化

フランスの遺跡で発見されたアシユール石器は、もともなる石から手頃な大きさの石を切り出して丁寧に成型加工して刃をつくる二次的な加工が施されています。

アシユール石器はホモ・エレクトラスによって作られ、140万、30万年前くらいまで使われていた、そして、この石器づくりの技術はアフリカで生まれた後、約100万年前という早い時期にホモ・エレクトラスの移動によってヨーロッパやアジアに広がった。



ていたと推定されていましたが、最近発見された176万年前と推定されるケニア・西トウルカナ遺跡では、オルドバイ文化とアシユール文化の人工物が一緒に出土しました。

そこで、アシユール文化は、この遺跡に別の場所から持ち込まれたか、この近傍でオルドバイ文化を担っていた人が生み出したと考えられますが、この時代には、アフリカからの人類が他の大陸に移動することはなかったもので、すでにこの時代のアフリカには、石器製作や集団の広がりの上から異なる文化を持つ複数の人類集団が共存していたことになりました。

アシユール文化の発祥は、ヒトの脳の進化で大きな変化が生じたのとほぼ同時期と考えられており、こうした脳の変化によって一層の技術的発展が可能になったと推測されます。

工具作りと脳機能の進化を想定するために、現代の人々

にオルドバイ石器とアシユール石器を作らせてみて、その時に働く脳の機能的領域や活性化の状態を脳機能画像的に測定するという研究もあります。

このような測定から、より進んだアシユールの石器を作成するためには、視覚と運動の協調が必要であり、特定の脳領域の活性化が要求され、面白いことに、この活性化領域は、ちょうど言語の神経回路と重なるので、工具製作と言語機能は、それぞれの目的に向かいながらも複合的な共同行動をとり、人間の総合的な能力に必要な脳活動の基盤を共有していることが判ります。

つまり、人間の進化において、言語機能と工具製作の協調がおこり、さらに、集団レベルの機能分化や文化の継承がおきるようになってゆくと共に、脳の連合皮質の拡張を伴って共進化がおきたと推定することができます。

#### 部内資料

発行責任者 太田 勅 (62-5727)  
議員連絡先 うすい孝彦 (62-5093)  
服部 久子 (62-4357)  
編集責任者 山本 久子 (61-1066)

190号  
2017年8月

## 日本共産党 池田ファンクラブ・ニュース あした天気にな〜れ

また安倍首相は5月3日の憲法記念日に、9条改憲を公然と宣言し、この臨時国会にも自民党案を提出する構えを見せています。オスプレイもオーストラリアでの墜落事故の原因が解明されないのに、

## 大北からも市民と野党の共闘を！ 9月10日 大町で講演会開催

「森友学園の国有地格安払下げ問題はどうか」  
「加計学園の獣医学部開設を、お友達の安倍首相が知らないはずがない」  
「南スーダンの自衛隊『日報』隠しも、何も答えていない」  
「改造内閣は疑惑隠しで、全部なかったことにするのは」  
「安倍政権の国政私物化に、町民のみなさんは怒っています」

「米軍が安全だと言っている」と、国内での飛行訓練を容認し北海道の日米軍事訓練を実施させます。  
このようななか、大北からも市民と野党の共闘をすすめるよう、  
「野党共闘をさらにすすめる大北地区懇談会」が作られ、9月10日に講演会が開催されます。  
講師は昨年新潟の参院選・

県知事選を野党共闘で勝利させた「市民連合@新潟」共同代表の新潟国際情報大学教授の佐々木寛さんです。  
佐々木さんは「普通の市民が政治や選挙に参加することで、大きな変化を社会にもたらしることができる」と学んだ。「安倍自民党への対立軸は、地方・地域の草の根に根差した市民と野党の共闘にある」と話しています。  
大北地域から本気の共闘を発展させるため、新潟の経験学び合ひましょう。

#### 講演会へのお誘い

### すすめよう！市民と野党の共闘 新潟参議院選挙・知事選の教訓

日時 9月10日（日）13時半～15時半  
場所 サンアルプス大町2F講堂  
講師 佐々木 寛さん（市民連合@新潟共同代表・新潟国際情報大学教授）  
主催 野党共闘をさらにすすめる大北地区懇談会

大北地域での、市民と野党の共闘をどう進めるか、新潟で市民運動の中心となって活躍している佐々木寛さんにその教訓をお話ししていただきます。お誘いあってご参加ください。



#### コラム 有明

昨年12月2日公民館で開催予定だった、実行委員会による「町民と政党的つどい」が、前日の1日に使用許可が取り消されたことは、FCニューズで何回もお知らせしました。実行委員会は12月27日に36項目の「質問と要求」を提出し、町と教育委員会は2月1日「回答」を行いました。  
▼回答は事実との違いがあり、納得できるものではありませんでした。実行委員会は2月28日「回答」に対して、再質問書を提出しました。▼何度も早く回答してほしいと要請しましたが、延ばされ続けこの8月29日に「回答と説明」を行うことになりました。4月に当事者の教育課長と公民館長の人事異動という事情があります。回答がこんなに遅くなったことは納得できません。▼今までに、町民の公民館利用が制限されたり、許可取り消しとなった例は聞いたことがありません。申込日が競合していない限り、即日許可となり許可書の発給すら省略されています。「戦争法に反対する池田町民の会」もたびたび使用してきました。なぜ「つどい」だけ許可が取り消されたのか理解できません。▼ともあれ、町側は誠実な回答を行い、今後の公民館運営、とりわけ新地域交流センター運営の指針としてほしいと思います。